

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4629
26年3月13日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

あなたは郵便配達続けられますか 月曜増区廃止、水曜・木曜減配置！

おはようございます。

2月20日、郵政ユニオン本部に対し、日本郵便(株)より「区画調整に代わる集配体制の見直し手法(案)」の情報提供がありました。内容は現行の通集配区を町丁目等に分割、ブロック化して、そのブロックの組み合わせにより平常配置、増配置、減配置を行う区割りを作成するものです。

郵政ユニオンの職場実態調査によれば、「減配置」は要員不足、休暇要員の生み出しを理由に多くの職場で行われていきます。この見直しはそれらを常態化するものです。提案内容を抜粋するとともに、長中局の場合どうなっているか考えてみます。

スケジュール
各支社3局程度を試行局として選定。試行局で

の試行準備は2月28日まで完了。3月1日から試行可能な通区を確保した班から順次試行開始。4月以降は全班で試行を開始し、週次で効果検証、月次で評価反省を行い、6月に最終評価を行う。

7月以降、(全局に)順次拡大、また7月を待たずに、試行局の結果を踏まえ、各単独MGグループ単位で試行の拡大を検討、となっています。



長中局では、2月25日から27日まで準備期間が短い中「減区試行」が行われました。長中局の減区試行は今回の提案によるものではないと思われれます。なぜ大雨の中、減区を強行したのか納得がいきません。

また減区試行以降も先週と今週水曜日に減区が強行されましたが、なぜ減区するのか説明はありません。「3日間の試行」以後も減区を強行するならば明確な説明が必要だと考えます。

配置人数別区割りパターンの作成

1区あたり5〜7程度に分割されたブロックを組み合わせ、現在の平常配置、増配置、減配置の3パターンの区割りを作成。減配置するパターンの区割りでは区割りパターンが非効率とならないよう、可能な限り区分口及び配達地域が隣り合うように作成。

長中局では急遽、減配置の区割りを作成したこともあり、特定の配達区を分割している班が多いのではないのでしょうか。新年度になれば人事異動で通区が必要になる班もあります。この際、本社が進めるブロック管理による区割りパターンの精査・策定を検討したほうがよさそうです。

要配達物数見込みの策定

○勤務指定作成前に日別の要配達物数見込みを策定。

○策定した要配達物数見込みに対し、最低限の配置人数となるよう、物数コントロールを実施し、要配達物数計画を策定、とされています。

特質すべきは減配置の強化です。水曜日の減配置は常態化。さらに物数コントロールを実施し月曜日を平常配置、木曜日を減配置。現行に比べ一週間に3回も減配置を行うとあります。職場では週1日の減配置(水曜日)と考えましたが、会社は更なる減配置を考えているようです。

要員配置物数に基づく勤務指定の作成

予め策定した物数を前提とした日別要配達物数見込みに基づき、日別の区割りパターンを決定。必要人数のみを配置する勤務指定を作成となっています。例として示された日別の区割りパターンでは月曜日、火曜日、金曜日が平常配置。水曜日、木曜日が減配置となっています。



今回提案された「区画調整に代わる集配体制の見直し手法(案)」には
①現行の「450分区分」という区画の考え方を

直すのか。要員算出基準の変更。②波動性のある郵便物数を管理できるのか、見込みが外れた場合どうするのか③業績手当、通区数によるスキル評価(3区分区でA評価)の考え方その他、区分機の区分変更、集配への書留などの交付がどうなるかなど問題が多くあります。ユニオンは試行局での検証結果の説明を求めるとともに、安易に減配置強化を行わないよう交渉していきます。



会社は「物数に応じた適正な要員配置」を常につけてきます。仮に走って配達、休憩時間を守らずに配達、で早めに終わらせれば、それが配達にかかる時間とされてしまいます。減区試行日は休憩時間を守らない社員が目立ちました。これではさらに減配置の日数が増えることにもなりかねません。無理をせず自分のペースで仕事をすることを心掛けましょう。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

みんなが均等に働けるように差別なく。

